

公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター

事業名	北海道留学生ふれあい交流in新ひだか						
実施期間	平成27年7月25日(土)～26日(日)						
場所	新ひだか町						
参加者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	22	50	4	10	20	10000	10106 名

＜実施内容＞

■新ひだか夏まつり参加(25日)

留学生一行は札幌からバスで約2時間の道のりを経て新ひだか町公民館に到着。早速、酒井芳秀町長が出迎えてくれて歓迎の言葉をいただいた後、公民館内で行われていた「全道阿波踊り大会」のエキシビジョンを見学し、ステージ上の華やかな舞いに魅了されつつ踊り方を学んでいた。その後、地域交流センターピュアプラザに会場を移し、酒井町長から改めて歓迎のご挨拶をいただいた後、法被と豆絞りを着てしずない愛好会・さくら連の踊り手2名の指導のもと、阿波踊りの練習を行った。はじめのうちは手を足の動きが合わず苦労していたが、次第に慣れてくると、



新ひだか夏まつりに参加

「ヤットサー！」「ヤットサー、ヤットサー」と独特のかけ声でリズムを合わせ、上手に踊れるようになった。本番時はあいにく小雨となったが、同町のみゆき通りの会場にて、全員で阿波踊り大会に出場。留学生は沿道からの声援を受けながら懸命に40分間のパレードを踊りきり、新ひだか町の暑い夏のひとときを盛り上げた。阿波踊り大会終了後は雨が激しくなり、残念ながら予定していた町民との交流パーティーは中止となったが、多数の留学生曰く「記憶に残るすばらしい体験」となった。

■アイヌ文化体験(26日)

二日目もあいにくの雨の中ではあったが、アイヌ文化体験を行った。はじめに、今年4月にオープンしたばかりの新ひだか町博物館を訪れ、学芸員からの説明のもと、新ひだか町の歴史やアイヌに関する展示資料を見学した。アイヌの歴史は1万年以上にさかのぼるが、現在伝承されている独特の踊りや衣装などの文化は約300年前に確認されているものであり、いかにしてこのような文化が生まれたかについては不明な部分が多いという話しなど、留学生は感心しながら学芸員の話に聞き入っていた。その後、アイヌ民俗資料館の見学を経て、シャクシャイン記念館にて、静内民族文化保存会の協力を得て、アイヌ民族舞踊体験を行った。同保存会からは子どもから大人まで約15名が参加し、アイヌ民族舞踊の披露や、特にエレムンコイキ(ねずみ捕りの遊び)という演目では、留学生もお菓子を狙うねずみ役を体験するなど一緒に盛り上がり楽しんだ。また、返礼としてパラグアイから参加した留学生から同国の民族舞踊である「ムヘルパラグアジャ」という祝いの場で踊られる踊りが披露され、皆で盛り上がった。

＜参加者からのコメント＞

チャン ポーカム さん(マレーシア)/Mr. Chan Poh Kam

祭りに参加して踊ったり、アイヌ民族舞踊を踊ったり様々な経験をして忘れられない思い出になった。出会った人と交流し同じ感動を共有できて本当に良かった。

アメリ マレーバ・ヴァンダーストック さん(オーストラリア)/Ms. Amelie Mareva Vanderstok

自分のもつ文化とアイヌ文化を比較し、知らなかったことを学べた。また、いろんな国の人と意見交換をし、勉強になった。